

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番地10  
TEL. (0258) 32-2811

◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋潔 加瀬由紀子  
室賀清輝 近藤マリ子 高橋利春 近藤善信

後援・株式会社アサヒ  
印刷・(株)北越時報社



長野市の円福寺東堂、藤本幸邦老師の揮毫された『今日先祖恩』

ご家族の皆さままでご覧ください

## 今日先祖恩

翠巖龍弘

今年の夏は過去最高の気温40.9度を記録する処がでるような猛暑の日本列島でした。最近の異常気象は日本だけではなく世界各地でおきており、豪雨・干ばつ・猛暑・竜巻の多発など、地球温暖化の影響か、地球が病んでいるようです。

人間の都合による勝手な営みへの竹箆返しであり、警告でもあると感じられます。私共も被害者であると同時に加害者でもあると反省させられ、一度立ち止まって人間の生き方を考えてみる事が大切ではないでしょうか。今年の長岡は七月は比較的涼しい日が続きましたが、八月の声を聞くと同時に毎日30度以上、立秋に入っても猛暑が続きました。昔は「お寺は涼しいですね」と言われましたが、お盆の十三日、私も一日中本堂に座って檀信徒の皆様

ご挨拶を受けさせて頂きましたが、座っているだけで汗をかき、何度も下着を取り替える暑さでした。扇風機を用意しておきましたが、風が温風で時間帯によっては熱風に感じられる程で、本堂に用意しておいた冷たい麦茶が大変嬉ばれたようです。

その猛暑の中、大勢の檀信徒の方々が早朝より夜まで、墓掃除や墓参り、本尊様、位牌堂での御参りをされておりました。常日頃日本人は宗教心が薄いと云われておりますが、宗教の定義は別として、日本人は世界でも有数の先祖をはじめ、亡き人を偲ぶ心を持つ国民ではないでしょうか。お正月・春秋のお彼岸・お盆と、お寺御参りをされる方が大勢おられ、雪で墓地に行けない冬は別として、墓地にはいつも多くの花が供えられております。

遠く県外からも一度以上御参りにこられる方も多く、もの言わぬ亡き人々に真心をこめての感謝や供養の誠を捧げられております。上の写真は今年七月下旬に建てさせて頂いた、長野市の円福寺東堂、藤本幸邦老師の揮毫された『今日先祖恩』です。本堂向かって左側、正面参道からも駐車場からもお参りに来られた方に目立つ場所を選びました。

日本人の多くの人々が持たれている気持ちですが、文字に書かれたものを見ると、より強く感じさせられるのではないのでしょうか。私達は両親をはじめ多くの先祖から受け継がれてきた生命を再認識し、自分自身のいのち、他のいのちの尊さを本当に知ることによって、地球にも優しい人間になれるのではないかと信じる次第です。

人の世の移り変わりは、木の葉のそれと変りがない。風が木の葉を地上に散らかすかと思えば、春が来て、蘇った森に新しい葉が芽生えてくる。そのように人間の世代も、あるものは生じ、あるものは移ろうてゆく。—ホメロス『イリアス』—



# 【日々精進(一)】

## まずはお顔とお宅を覚えることから

近藤真弘

早いもので本山から安善寺に戻り四ヶ月が経ちました。修行中、学生時代を合わせる約十年間長岡から離れていましたが、生まれ育った街だけにすぐに生活には馴染むことができました。

しかし、実際に檀務が始めると一つの問題が生じました。それは思っていた以上に私には長岡での地理感が無いということです。というのも前号で少し紹介しましたが、私は六月より月命日の御檀家さんのお宅を訪問しています。名前と住所だけを頼りに伺わなければならないのですが、住所の町名を見てもそこがどの辺なのかまったくといって良いほどわかりません。考えて見れば高校まで長岡にいたときは車の免許も無く、行動範囲はごく限られた通学路やその近辺程度でした。

これは困ったなと思いましたが、そんな悩みを解消したのが車に搭載されている文明の機器「カーナビ」でした。これはすごいもので住所、もしくは電話番号と名前を入力すればピンポイントにそのお宅まで案内

してくれれます。おかげで初日から道に迷うことなく目的地に到着することができました。何日か経ったある日こんなことがありました。いつものようにカーナビに入力し、目的地に到着しました。カー



ナビを信じきっていた私はそのお宅に着くと表札を見ないでインターホンを押した。すると中から出てきた家の人は私を見て「わっ、びっくりした」と、そう、私はまったく違うお宅に間違っ

て行ってしまったのです。驚くその家の人を見て間違いに気づいた私は「〇〇さんのお宅では無いですか？」と聞くと「違いますよ」と、間違えたついでに「この辺に〇〇さんというお宅があると思うのですがご存知ですか？」と聞くと「この辺では無いと思うけど」と答えが返ってきました。

カーナビに頼りすぎていた私は困ってしまい、一度お寺に戻り地図でお宅の確認をして再度出発しました。今度は無事に目的のお宅に着いたのですが、着い



てみてビックリしました。目的のお宅は先ほど間違えて行ったお宅のすぐ斜め前だったのです。

カーナビというのは本当に便利なものです。しかしそれに頼りすぎてしまった私は、表札の確認や事前の下調べなど当然のことが疎かになってしまいました。

もう何度か同じお宅にもお伺いしています。しかし未だにカーナビを利用しないといけない所もあります。本当の意味で慣れてきたというのは、お伺いしている皆さんのお顔、そしてお宅をしつかり自分の頭で覚えることだと改めて反省

させられました。

そしてこの出来事でもう一つ気になったのは、間違えて伺った家の人です。斜め前に住んでいる人の名前を知らなかったということです。近所づきあいは例外もあると思いますが年々希薄になってきていると思います。しかしそれを目の当たりにして寂しい感じがありました。

いろいろなことを感じ、反省することも多々ある生活ですが一つひとつのことをしっかりとこなし、これから長く続くここでの生活の始まりを大切にしたいと思います。



# 私だけの楽しい撮影旅行

長岡市若草町 橋詰 明男

車の外は零下23度。冷蔵庫のフリーザー状態だ。車の中は零下8度。ペットボトルとやかんの中の水は凍っている。二重にした分厚い寝袋を通し、冷気が伝わってくる。季節は年末年始の夜明け前。ここは北海道阿寒郡鶴居村。

今日も凍死せずに生きています。と、いうような事を考えていると外が何やら騒がしくなってきた。ヨシッ！意を決して寝袋から抜け出し、車のエンジンをかけ、カセットコンロに火を付けるが、寒冷地仕様のガスボンベでも火力に元気がなく、今にも消えそう。再び寝袋に潜り込んで約一時間。漸く車の暖房が働き始める。毎日、こんな事を繰り返して、一日の朝が始まる。前夜に場所取りの為に立てて於いた三脚は無事か？などと考えながら、撮影機材を取りまとめ、雪裡川に



かかる音羽橋歩道橋で最も良い撮影ポイントへ行く。昨夜は何も無かった三脚が、今朝は隙間もなく立ち並んでいる。「おはようございます！」と、私の左右に陣取った見知らずの人に声をかけ、日の出を待つ。さあ、これから30分が朝の部の勝負だ。イメージしている写真

は、右岸の林の霧氷に朝日があたり、立ちこめる「けあらし」の奥に丹頂が浮かび上がる光景。幻想的なこの光景を一度見たらもう丹頂の「虜」。日の出後30分で撮影を切り上げ、次なるポイントへ移動。ここは雪裡川で夜を過ぎり上げた、次なるポイントへ移動。ここは雪裡川で夜を過ぎり上げた、次なるポイントへ移動。ここは雪裡川で夜を過ぎり上げた、次なるポイントへ移動。

の真下。さあ何時でも飛んで来てと空を仰ぎ、念じ続けると彼方から鳴き声が聞こえ、数羽の飛行編隊が幾度となく通過してゆく。こんな流れ線の飛行機は見た事がないコンコルドも「羞月閉花」。F15、F22よりもずーと美しい飛行編隊だ。手を伸ばせば届きそうな、こんな目の前を飛んで行く姿は、正に自然が作り出した芸術品だ！ イメージしている写真は、真っ青の空に、翼を広げた白と黒のコントラストが眩しい丹頂の姿。ここも1時間ほどで切り上げ、丹頂が飛んで行く先へ先回りする為に移動を開始する。午前9時、太陽は皆さんと照りつけるが零下15度。でも、もう寒さはもう感じない。もう「トランス・ハイ」。

一方、日の出後の別の撮影パターンには、日の出前から丹頂が飛来してくる場所へ先回りして、何も居ない雪原でただ一羽、仲間を呼んで鳴き続ける写真を狙う手もあります。イメージしている写真は、逆光のオレンジ色に輝く雪原に丹頂がただ一羽かん高い声で鳴くと同時に、吐き出された息が太陽に輝き、赤く染まった光景で「火を噴く丹頂」です。気温が低すぎると、丹頂の喉元も冷えて息が白くならない。気温が高いと雪裡川に霧氷が付かない。前夜に次の日の朝の気温を予想して臨機応変に撮影ポイントを決定する。これが野宿撮影の醍醐味と言った処でしょうか。日中は、丹頂の給餌場あたりで三脚を立て一応撮影。及び、年に一度、日本各地からこの地に集合する私同様の事をしている「御同類」と、お互いの再会を喜び合い、二年の出来事を歓談し、夕方を待つのであります。大宮の〇〇元プロ、千葉の〇〇さん、函館の〇〇さん、夕張郡の〇〇プロ、大阪の〇〇さん、等々。

北の日は早い。午後3時に、夕焼け空に丹頂がねぐらに帰る飛行編隊を撮影するポイントへ移動し、飛来を待つ真つ赤に染まる夕焼けに、丹頂が真横に飛んでゆく姿はもうこの世の物とは思えない光景で、もう明日も明後日も、来年も再来年も、なってしまうのであります。あたりが薄暗くなった頃、一日の撮影を切り上げ、近くの温泉で一日の汗を流し、車の中でカセットコンロで夕食を作り、一人わびしく食べながら、今日の反省と明日の作戦を考えて、楽しい夜を過ごすのであります。旅には色々あります。美味しいものを食べ、珍しい物を買って、行った事の無い所へ行ってみる旅とは全く逆の、私にとっては楽しい撮影旅行の紹介でした。





# 絵本に込められた 心に響くメッセージを 今こそ伝えたい

小さな絵本館サバト 代表 西川 暁子



地震で無惨な姿になってしまった「絵本館サバト」

七月十六日 午前十時三十分。震度六強の揺れで柏崎の中心部は、ほぼ壊滅してしまいました。

海の記念日の午前中、柏崎の夏の訪れを感じながら、のんびりと過ごしていた最中。わずかに十二秒の強い揺れ、それに続く二分間で、そのゆったりとした時間は飛び去りました。

昭和十年代に建てられた偽洋風建築の美しいサバトも、無惨な姿に変わり果てました。オルゴールの音色にコーヒーマシンの香りが漂い、緑を眺めながら、誰もがゆ

つたりと絵本を楽しむ空間。それが小さな絵本館サバトでした。

産院として沢山の命を世に送り出し、七年前にその役目を終えていた美しい建物にラブコールをし、昨年また新たな歩みを始めたばかりでした。

「また、可愛い声が響くのね。ご先祖様がどんなに喜んでくださるでしょう！」と快諾された宮川オーナー。ご一家でサバト活動を支えて下さいました。週三日で五千人の方がこの空間を楽しみ、絵本と出会って下さいました。

激震地区のご真ん中に立っていたサバトは、全壊は免れましたが、土壁は全て落ち、柱は三十度以上傾き、柵は倒れ、絵本は散乱し、至る所全ての物が信じられない様相。

自宅のことを二の次に、サバトの絵本を出さなければ！と、宮川一家が協力し、余震の中を運び出してくださり、私達が駆けつけた時には、支柱の手当てがしてありました。

建物の中でも一番の衝撃があった場所に置いてあったオルゴールを流すデッキは破壊、舞台代わりの大階段は建物から離れ、床には数センチの土が積もっていました。

危険だから欲を出さないで！の声を背中に浴びながら、「大丈夫！ 皆置いていかないからね」と周りの中の子どもの達に声を掛けながら、無中で運び出しました。

サバトの財産は、皆さんから戴いたものです。何一つ私物はありません。テーブルも椅子も、柵も手作り。絵本も何もかも、誰かの想いのこもったものばかり。床に散乱したチラシ一枚だって、救い出したかった！でもそれは到底叶いません。

館を取り壊すその日、宮川夫人とサバトに真紅のバラの花束をおくりました。玄関に手向けていたのだいた後、残してきた物たちは、建物と一緒にその役目を果たし終えていきました。

館は、消えてしまいました。サバトを続ける人達が、



土ぼこりに埋まった大切な絵本たち

と絵本達が埃をかぶりながらも、キラキラとした瞳で今此処にいます。支援して下さる方達の大きなエネルギーも聞こえています。あの瞬間を境に、消えていったものと偉大さと、残されたものの重みを同時に感じています。

嘆き悲しんで元に戻るなら誰もがそうしていることでしょうか、それでは前に進めません。倒壊した建物、むき出しになった生活用具が無惨に積み上げられたままの光景がそこかしこに残っている中でも、朝が来て、明るい日差しや、秋の

が

気配、壮大な夕陽が街をつんでくれます。死語になりかかった「感謝の気持ち」が街中に溢れています。此処から何かが生まれたいわけはありません。

絵本に込められた心の琴線に響くメッセージを今こそ伝えていかなければ。泥んこ遊びをした後の子供のように、ほこりっぽい絵本たちが、皆さんとの出会いをむすむすして待っているのですから。

◆サバトにカンパを！  
絵本館サバト

郵便局振替口座番号  
005201119149

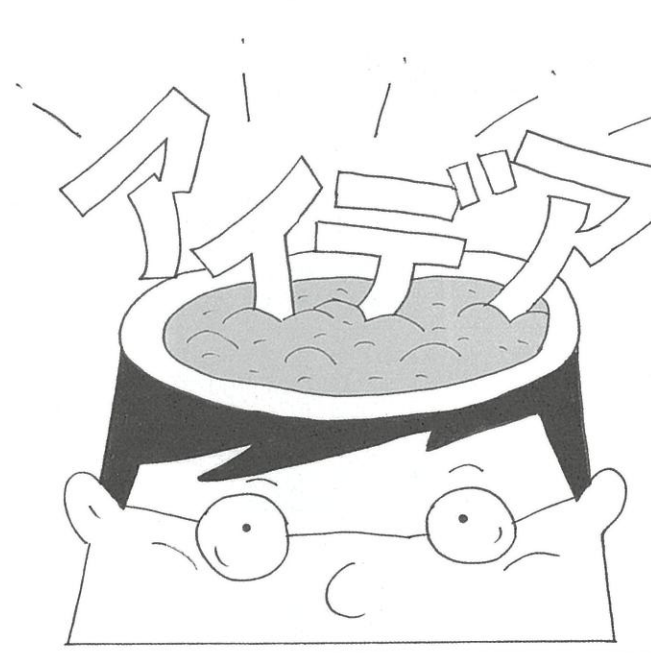


# 国境なき知財事情

弁理士 黒田勇治

先月二九日、東京地裁でチャールズ・チャップリンの映画の著作権に基づき、「モダンタイムス」「街の灯」「ライムライト」などの著名な作品の廉価版DVD（一枚五〇〇円）を無断で複製、販売したとして著作権侵害を認め、制作会社に對し、販売禁止及び損害賠償を命ずる判決があった。

また、ビートルズが設立した英国のレコード会社アップル社と、米国のパソコン大手アップル社とが、商標「アップル」、商標「リンゴの絵柄」の使用について、数十億円の和解金と今後の使用許諾料を支払うことで和解するなど、この種の知的財産に関する事件はあとを絶たない。



ざし、国家レベルで知財戦略を推し進めている。その背景には、知の創造活動を活性化し、その成果を知財として適切に保護すると共に有効に活用し、そこから得られた収益を新たな知の創造活動に振り向けていくという知財の創造、保護、活用の知的創造サイクルの

早期実現など、知財の重要性が格段に高まっていることがある。いま、知財をめぐる国内はもとより国境を越えて世界はダイナミックに動いている。そこには、弁理士などの様々な分野の専門家の地道な努力に支えられ、知財立国は成り立っていることを忘れてはならない。

知的財産基本法第二条に「知財」の規定がおかれている。この定義規定によれば、「知的財産とは、発明、考案、植物の新品種、意匠、著作物、商標、営業秘密……をいう」とされている。これらを律する法律としては、特許法、実用新案法、意匠法、商標法（この四法を総称して産業財産権法ともいう）、加えて、著作権法、不正競争防止法、独占禁止法、回路配置に関する法律が登場することになる。

そろそろ方丈様より合図が来ましたので、この辺で面白くない話は打ち切りにします。福井県在住の恩師は「特許権や商標権など権利の創設は『無』から『有』（無形の財産）を作ること、我々にはこれら権利の創設及び創設された無形の財産を守ることに社会的使命がある。かの高名な名医、日野原重明先生は「医師は自分の寿命を患者のために燃やしているという信念をもって毎日の治療に当たるべきである」といつておられます。「我々も常に理想と誇りを



黒田勇治氏プロフィール

年齢五八歳、昭和六十年弁理士国家試験合格、大阪工業大学機械工学科卒業、松下電器産業株式会社生産技術研究所退社、新潟工科大学非常勤講師。家族は妻と子供男二人。

## 【黒田氏とは】

高橋利春

黒田氏は、長岡市今朝白三丁目黒田特許事務所を主宰している弁理士で、安善寺様の檀家でもあります。方丈様や私と同じ長岡長生ライオンズクラブ会員で、地域に少しでも役立ちたいと奉仕活動をしたり、時には、奥様共々ご一緒にお酒を飲んだり談笑したりしている、心穏やかな方です。ところが、昨年「発明日」四月十八日に、「経済産業大臣より「知財功労賞」という、日本で三名以内しか表彰されない産業財産権制度関係功労表彰の中で最高位を受賞されました。これは、中小企業個人からの依頼について、先行技術調査を無料で実施し、また審査請求を無料で実施し、また審査請求の必要性について適切にアドバイスをしたり、的確な書類作成を通し、審査の迅速化に貢献され、また、無料相談や各地での講演活動を通して、地域の産業財産権制度の普及発展に貢献された功績により栄誉に輝かれたものです。皆様も良いアイデアが浮かんだら、黒田特許事務所へお伺いしてみたいかがでしょうか。良いお話が聞けるかも。



# 北越雪譜・雪の怪談

さる八月十八日(土)安善寺本堂において能楽師、高井松男氏の語りで「墨詩北越雪譜・雪の怪談」の公演が催されました。

先立つこと、六月末に「KAKA笑の会」主催のコンサート等で本堂使用が好評を博している、といううわさを聞き及んだ高井さんが、安善寺を訪れ本堂を見学、たいへん気に入られぜひ使用させてほしい、という申し出がありました。

公演当日は、お盆の後に怪談、しかも鈴木牧之の北越雪譜を題材、ということとで涼しさ、怖さあいまった夜となりました。更に方丈様が骨董品の蜀台や年代ものの行灯を提供され、ろうそくに火を点すとゆらゆらと演者、高井さんの顔を下から照らし、こわさが増幅されたのでした。

内容は、吹雪の日に、商人と農夫が遭難し、商人が農夫の弁当を金で釣って生き



び、農夫が犠牲となって死んでゆく。その農夫を弔うこともなく見捨てて商人は家に帰り、その後、成長した彼の娘が魚野川を渡ろうと橋の中央まで来ると川にひきこまれて死んでしまう。嘆き悲しんだ商人は娘の遺体から、髪の毛を遺品として切ろうとする、かみそりで切った

髪の毛が、するする、するする、と風呂敷に隠れてしまう。(するする、の表現が実はとてもこわかったのです)商人は農夫の一件を思い出し、ねんごろに弔った、といった噺です。しかもこわい場になると山田路子さんの篠笛が一瞬の静寂を破ります。高井松男氏は長岡市出身、

## 安善寺・これからの行事予定

◎秋期火防稲荷吒枳尼尊天大祭

九月十八日(火) 午前十一時より  
吒枳尼尊天祈禱大般若(稲荷堂)  
・茶話会(客殿)

◎秋期彼岸会

九月二十日(木) 午前十時半より  
・彼岸入り法会(本堂)  
・法話

・茶話会(客殿)

九月二十三日(日) 午前七時半より  
・彼岸お中日法会(本堂)

・法話

・茶話会(客殿)

九月二十六日(水) 午前十時半より  
・彼岸明け法会(本堂)  
・法話

・茶話会(客殿)

◎第十回KAKA笑の会

十月十二日(金) 午後六時半より  
・会場 安善寺本堂  
・山田流箏曲

・三線・三味線ライブ

◎花祭り秋期講演会(長岡市仏教会主催)

十月十三日(土) 午後四時より  
・会場 ホテルニューオータニ長岡 NCホール

・講師 青山俊薫老師(愛知専門尼僧堂堂頭)

◎第二十一回医療の心を考える会(医療の心を考える会主催)

十月二十四日(土) 午後一時より  
会場 新潟市(会場未定)

◎釈尊成道会

十二月八日(土) 午前十一時より  
・成道会法要(本堂)  
・法話

・お斎(客殿)

◎山内大掃除  
十二月十五日(土) 午前八時半より  
・本堂、位牌堂、稲荷堂、客殿の大掃除

他に左記の行事があります。お気軽にご参加ください。

◎坐禅会  
午前六時〜七時(坐禅堂) 茶話会  
九月：四日・十一日・十八日・二十五日  
十月：二日・九日・十五日・二十三日  
十一月：六日・十三日・十八日・二十七日  
十二月：四日・五日・六日  
夜：七日・九日

◎写経会  
午後一時〜二時半了茶話会

◎無碍智俳句の会  
午後一時半〜三時了茶話会

## お別れ

(平成十九年六月〜八月末)

石丸悦雄様 七月二十八日寂

長岡市呉服町

近藤タケ様 八月十五日寂

埼玉県八潮市

金内敏雄様 八月十五日寂

長岡市琴平

ご冥福をお祈り申し上げます。



# 旬歌 愁灯

[その十四]

## シシリエンヌ

加瀬由紀子

九月の声をきいてようやく暑さも下火になった。それにしても地域によっては四十度を越えたこの夏の炎熱地獄に、お株を奪われ、閻魔様もさぞや驚いたことだろう。さらにヒートアップさせたのは、ガソリン、軽油の類がまたまた値上げ、との通知だった。

「いやがらせメールよりも悪質な不幸の手紙ですね」とガソリンスタンドの所長に皮肉ると、「こちらも辛いですよ」と嘆く。一回の給油に五千円也が消える訳で、車検・オイル交換などの車両維持費、自動車税や保険料、高速道路料金他が加算され、渋滞事故に遭遇した日には、車一台あたりの出費はすさまじい金額になる。そして世界同時進行で同様の消費が休みなく続き、増加してゆくのだからたまたまのものではない。

しかしながら私も車を使わない日は年に一週間もなくて、通勤、仕事、買い物と日々ハンドルを握っている。交通網の発達した都心は別としても、もはや車のない生活など考えられない。こうして世の中、間違いなく地球温暖化に歩を進めていることに少なからず罪悪感を覚える。原発はいらない、と言いつつ、電気のない生活を捨てるのは不可能という論理と同じだ。

石油燃料はあと三十年で枯渇するという予想か、アメリカも撤兵をせずに産油国イラクを手放さない。この先、ガソリン代はどこまで上がるのか、ではなくて幾ら確保できるのか、という時代がそこまで来ている。

気のめいる話題は、無責任ながら先送りしよう。今年の晩夏の尾瀬は、いつになくにぎやかな話題に

満ちていた。八月三十日、日光国立公園から分離独立、二十九番目の「尾瀬国立公園」が誕生した。私(尾瀬保護財団・評議員)は、環境省主催の、鳩待峠での標識除幕式に出席、翌三十一日は尾瀬保護財団主催の「尾瀬サミット」に臨んだ。日頃は簡素な山の鼻地区の山小屋やビジターセンターには、「祝・尾瀬国立公園」の垂幕が仰々しく下がった。

三十日の夜は山の鼻ビジターセンターで、群馬交響楽団のフルート奏者によるコンサートがあり、普段は虫の声しか聞こえない尾瀬ヶ原に妙な調べが流れていた。付近をテリトリーとするツキノワグマの京子ちゃんもフォールレ作曲の「シシリエンヌ・ト短調」にうっとりしたことだろう。(翌朝、木道上にフンがあったのはその証拠?)

コンサートの後は食事を兼ねた懇親会となった。山小屋の狭い食堂は身動きできない混雑のうえに、報道関係者がカメラをいっせいに向ける。これでは、食事ものを通らない。と思いきや、実はカメラが狙っていたのは、私の向かい側に座っている大沢群馬県知事、佐藤福島県知事、そして我らの泉田新潟県知事だった。

泉田知事に話しかけるとなかなか気さくなお人柄で



「新潟の奥只見側からのルートをもっと盛んにしないで。協力してくださいね」と逆に持ちかけられる。星野魚沼市長にも檄を飛ばし、意気盛んだ。

夜が更けても宴会は続いていて、部屋に戻ると既に寝ている女性がいた。夕方、布団を敷くときに、「額縁型に敷きなさい。お互い迷惑がかからない方法です」と言ったどちらかと言えど目立たない、おかつぱ頭にメガネの小柄な女性。は

き心地の良さそうなズボンをはめると、「この間お会いした雅子様もそうおっしゃるので、一本差し上げました。その後、宮内庁から四本注文いただきました。評判いいんですよ。ブランド名? タベイです」

エッ、もしや七大陸最高峰を征服した登山家の? 「そうです。田部井淳子です。おととい、コーカサスから戻ってきたばかり。八千八百メートルのエベレストほどではないけれど、四千メートル級の山でも氷河の往来は緊張しますね。馬も四本足にアイゼンつけるのよ。」うわさには聞いていたが、並の人ではない会話。翌々日は安達太良連峰を縦走するそうで、とても六十七歳には見えない。

自然に立ち向かうには自然のサイクルを尊重し、逆らわない事。睡眠、食事、事前準備、と語る登山家も地球温暖化を肌で感じているという。田部井さんとの出会いは、まさに尾瀬から地球を考え、温暖化を憂えるサミット出席でもあった。



# まだまだどうして…



ペコのひとりごと

暑い暑いと言っているうちに、あんなに賑やかだった

蟬の声も気付かないうちに聞こえなくなり、朝窓を開けると心地よい風が入ってくるようになりましたが、今年の夏も本当に暑かったですね！ 私は年々この暑さが堪えるようになりましたが、何とか乗り切りました。

そんな折、先日、お兄ちゃんの小学校時代の友人が何年ぶりに訪ねて来てくれたのですが、私のことを見てビックリ！「まだこの猫いたの！」ですって。人間の言葉が話せたら「失礼しちゃうわ！」と言いたいくらいでした。でも十年ぶりに長岡で生活することになったお兄ちゃんですが、幼い頃の友人との交流も復活し、皆それぞれ立派になり、中にはお父さんになった人も何人か。そんな友人をお母さんは懐かし

そうに見ていました。

そのお母さんですが、お盆の十四日の早朝、サクラとノンを庭の奥で遊ばせていたら突然、「蜂に刺された！」と言う声と同時に二匹の犬をその場において、家の中に入ってしまいました。それからすぐにお母さんは、中央病院に行つて点滴をしてもらい、事なきを

えたようです。

後で分かったのですが、お母さんを刺した蜂は体長二センチくらいの黄色スズメ蜂だったそうです。今年のような猛暑が続いた年は、これからスズメ蜂の活動期になるので、皆さんも気をつけられて下さい。ボブはと言うと、毎晩のように夜遊びにでかけ、お



兄ちゃん達が捜しても何処に行ったのか分からず、首輪を落として朝帰りすることも無し。相変わらず家の

中ではボブと犬の戦いが続いていて賑やかです。特にボブが子犬のノンに捉まったら大変です。顔中舐められてゴワゴワになっていたり、自慢の髭が顔に張り付いていたりするのです。何時になったら静かに過ごせる日がくるのでしょうか？

そんな中、暑さで私の寝る場所を捜していたら、位牌堂の座布団の上が涼しくて気に入り、休んでいたら、口の悪い人が「ペコもこんな場所ですら寝るようならそろそろ近づいたのかね！」と言う声が聞こえてきました。が、まだまだどうして…。

ニャーン

## 編集 雑感

暑かった夏も九月の声をきくといつの間にか秋を感じさせてくれます。稲穂も梨、柿、葡萄と収穫の時期を迎え、木々も色づき日に日に秋が深まって行きます。

ちはやふる神代も聞かず龍田川 唐紅(からくれなゐ)に水くくるとは

在原業平

有名な古今集の歌は奈良県の西大和地方に流れる竜田川が神代の昔から聞いたことのない程の鮮やかなカエデの紅葉で川の水を真っ赤に染めてしまう美しさを歌ったものだといわれます。

この近辺でも来迎寺のみじ園の紅葉は大変美しくその時期になると大勢の人

が訪れます。元々は神谷の高橋家が京都より取り寄せた紅葉の木を植えた庭園だと聞いています。

業平の歌は落語に登場します。知ったかぶりの男が歌の意味を聞かれ、龍田川という相撲取りが花魁の千早太夫と神代太夫に恋するが振られてしまい、傷心した龍田川は故郷に帰り豆腐屋になる。十数年後一人の女が現れ、おからでいいから下さいと物乞いをする。ふと顔を見ると落ちぶれた千早太夫だった。しかし龍田川は怒っておからをやらぬ。そのため千早は失望し井戸に身を投げてしまふ。というものです。

和歌の高尚さと庶民の笑いの落差を今は亡き名人志ん生は上手く演じます。

私も和歌よりは目黒の秋刀魚を食べながら落語でも聞いて夜長となる秋を楽しみますかね。

最近投稿が少ないようで、編集委員会の危機です。読者の皆様からの投稿を熱くお待ちしています。

高橋 潔

## お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

### 原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、怒ったこと。